

1年 道徳

主題名	友達を思う心
中心内容項目	B-(9) 主として人との関わりに関すること (友情・信頼) 二わのことり
	平成30年 11月 22日 2校時
	児童 1年 2組 19名
	授業者 飯田 忍

1 主題設定について

本時でとりあげる内容項目は、「友達と仲よくし、助け合うこと」である。

この段階においては、幼児期の自己中心性がまだ残っているところが多くみられる。そのため、友達の気持ちを考えない言動をしてしまい、トラブルになることもある。しかし、友達と仲よく遊んだり助け合ったりする経験を積み重ねていくことで、少しずつ友達の気持ちを考えることができるようになってくる。対人関係が未熟な1年生といえども、相手を思いやり大事にしようとする心情を育てることは大切であると考え、本主題を設定した。

2 他教科・他領域や日常指導などとの関連

生活科の「たのしもう秋」の学習では、班の友達と落ち葉を集めたり、算数の「かたちあそび」では友達と協力して大きな立体物を作ったりするなど、友達のことも考えながら活動する学習を経験してきた。また、友達の意見を聞いたり、受け入れたり、認め合ったりする力を高めていくことをねらい、2学期から係活動を始めている。帰りの会の「きょうのこちゃん」の発表も、お互いの良さを認め合い友達関係をより豊かなものにする手立てとして行っている。

3 児童の実態

係活動では、友達の話を聞いたり、認めたりできる児童のいる係は比較的上手く活動を進めることができている。一方では、自分の意見を主張し過ぎたり、話を聞かないで一方的に物事を進めようとしたりする児童のいる係では、ケンカが起こったりその場の雰囲気も悪くなったりしている。担任としては、これからも様々な活動を通して、友達と一緒に仲よく活動することの良さや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるような活動を取り入れていきたいし、また、ケンカをしても友達の気持ちを考えて仲直りできる児童に育ててほしいと願っている。そして、思いやりがあふれる温かな学級になってほしいと思っている。

事前アンケート調査

友達とどんなことをしていますか。	・遊ぶ ・学童に行く ・一緒に帰る ・当番をする ・読書 ・なわとび
友達と仲よくできたことはありますか。それは何ですか。	・ある17人 ・ない1人 ・100ランドで遊んだ ・当番 ・おにごっこ ・なわとび ・鉄棒
友達と仲よくできなかったことはありますか。それは何ですか。	・ある6人 ・ない12人 ・けんかした ・押された ・自分かきつってケンカになった ・謝ったけど許してくれなかった ・お願いしたことを断られた
友達と仲よくしたいですか。	・はい18人 ・いいえ 0人
あなたは、どんな友達になりたいですか。	・優しい 8人 ・仲良くできる 7人 ・楽しく遊べる 7人 ・にこにこ 2人 以下1名 → 親友 親切な 元気いっしょい喜んでくれる
友達にされて、嬉しかったことはありますか。	・ある10人 ・ない5人 ・無回答3人 ・一緒に遊んでくれた ・手伝ってくれた ・遊ぼうって誘ってくれた ・教えてくれた ・仲間外れにしないで遊んでくれた ・物を貸してくれた ・お手紙をくれた

4 教材分析

本教材は、「みそさざいは、やまがらから誕生日の招待を受けながら、迷いつつも友達に誘われるままうぐいすの家へ来てしまう。しかし、寂しく待っているであろうやまがらを思い、途中からそっと抜け出してやまがらの家へ行く。みそさざいは、自分が来たことを喜ぶやまがらを見て「来てよかった」と思う。」という内容である。

みそさざいの心の葛藤に共感したり、みそさざいの友達を思う気持ちを深く考えたりすることでねらいに迫りたい。また、思いやりの行動を通して、友達の喜びが自分の喜びにもなることにも触れていきたい。

5 総合単元ユニットとの関係 (体験的な道徳との関わり)

休み時間や学習活動、当番・係活動など、学校生活のあらゆる場面において、友達と仲よくし、思いやりをもって助け合っていくようとする心情を育てる。

6 自分の心と向き合う道徳 【思考の流れとなる手だて】

価値への意識づけ

友達との生活を振り返り、仲よく過ごしたいという思いがあるが、実際はそうはいっていないことも多いことを知る。

自分との対話

中心発問とまとめの場面で、書く活動を取り入れることにより自分の心と向き合う。

相手との対話

価値を深める補助発問の場面で、友達の考えを聞くことにより、考えを交流させる。

価値に対する見取り

資料から学んだことや実生活を振り返り、ねらいとする道徳的価値について自分との関わりで考えさせる。

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・やまがらを思いやるみそさざいの気持ちや行動を考えることを通して、友達の気持ちを考えて仲よく助け合っていくようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応 (○基本発問 ◎中心発問)	教師の支援・評価・研修との関わり ●支援 □評価指標 ◎研修との関わり
体験を想起する	1 友達との生活を振り返る。 ○友達とどんなことをしていますか。 ・休み時間遊んでいる。 ・勉強している。 ・掃除をしている。 ・給食当番をしている。 ・一緒に帰っている。 ○いつも、なかよく遊んだり、当番をしたりしていますか。 ・している。 ・していない。 ○友達と仲よくしたいなと思っている人? ・はい ○人 ・いいえ ○人 ≪価値への意識づけ≫ ともだちと なかよくするために 大せつなことは なんだろう ○みそさざいが、友達と仲よくするためのヒントを教えてください。 それは何かを考えながら、読みましょう。	●素直な子どもたちの思いを引き出させるような雰囲気づくり。 ●友達といつものように過ごしているのかを振り返り、ねらいとする道徳的価値について考えるきっかけとする。 ◎問題意識につなげる手段として、アンケートを事前にとっておく。 ●友達と仲よくしたいと願っているが、実生活では友達と仲よくできない場面も多いことを確認する。
	2 教材「二わのことり」を読んで話し合う ○みそさざいは、迷ったのに、なぜうぐいすの家に行ったのでしょうか。 ・明るいから ・梅の木があるから ・きれいだから ・友達もみんなうぐいすの家に行くから ・人数の多いほうに行こうと思ったから ○みそさざいは、うぐいすの家で、どんなことを思っていたのでしょうか。 ・やまがらさん、寂しがっているかな。 ・やまがらさん、どうしているだろう。 ・みんなといつも楽しくないな。 ・うぐいすの家に来てよかったのかな。 ◎どうして、みそさざいは、やまがらの家に行くことにしたのでしょうか。 ・誕生日なのに、誰もお祝いしてもらえなくて、かわいそう。 ・友達だから、行って「おめでとう」を言いたい。 ・やまがらさんは、来てくれるのを待っているはずだ。 ○みそさざいは、嬉しそうなやまがらを見て、どう思いましたか。 ・やっぱり、きてよかったな。 ・いいことしたな。 ・喜んでくれて、自分もうれしいな。 ・寂しい思いをさせて、ごめんね。 ≪価値に対する見取り≫ ・ともだちの気持ちをかんがえることが 大せつ。	●話に入る前に、登場する鳥について簡単に紹介したり、話を聞く視点を与えたりする。 ●周りの小鳥の意見に流されて、うぐいすの家に来てしまったみそさざいの行動をおさえる。 ●やまがらのことが気になり、楽しい気持ちで過ごしていないことをおさえる。 □道徳的心情 (発表) やまがらのことを思いやり、駆け付けようと思ったみそさざいの気持ちに共感する。 ◎自分との対話 ワークシートに自分の考えをまとめる。その後、自分の考えを全体に発表する。 ◎相手との対話 友達の意見を聞きながら様々な考え方にふれ、理解を深める。 □道徳的判断力 (発表) 相手が喜ぶ姿を見ると自分の心も満たされることかわかる。
心を耕す	3 自分の心と向き合い、価値を深める ○みんなのまわりにも、みそさざいのような友達はいますか。	◎自分との対話 友達に思いやりのある行為をされた時のことを思い出す。 □道徳的実践意欲 (ワークシート・発表) これからも友達と仲よくし、思いやりをもって助け合っていくようとする意欲を高める。
	4 本時のまとめをする ※本時の学習を振り返る。 ※自己評価を行う。	

(3) 本時の評価

- ・やまがらを思いやるみそさざいの気持ちや行動を考えることを通して、友達の気持ちを考えて仲よく助け合っていくようとする心情を育てることができたか。